

## New Crown 第18回 Lessons

### Lesson 18-1 : be going to 肯定文

ここでは will と同じように「未来形」と呼ばれる be going to について学んでいきます。これらは will 同様「～する予定」「～するつもり」と主に訳されます。be going to は、厳密には

**be 動詞 + going + to + 一般動詞の原形 + ～**

という形で使われます。この be 動詞 + going + to は、「～に行っています」という進行形の意味を持っていないというのが1つのポイントとなります。

#### 【未来形① be going to 肯定文：基本の形】

am  
主語 + is + going + to + 一般動詞の原形 + ～.  
are

(「主語」は「一般動詞」する予定です) (「主語」は「一般動詞」するつもりです)

- <例> I am going to study English. (私は英語を勉強する予定です)  
He is going to play baseball. (彼は野球をするつもりです)  
They are going to visit Kyoto next week. (彼らは来週京都を訪ねる予定です)

#### 【作り方】

- ステップ1. 一般動詞の現在形の肯定文を作る。  
ステップ2. 動詞の部分を **be 動詞 + going + to + 一般動詞の原形** にする。

<例1：私は英語を勉強する予定です>

ステップ1. 一般動詞の現在形の肯定文を作る。→ 「私は英語を勉強します」

I study English.

ステップ2. 動詞の部分を **be 動詞 + going + to + 一般動詞の原形** にする。

I am going to study English.

<例2：彼は野球をするつもりです>

ステップ1. 一般動詞の現在形の肯定文を作る。→ 「彼は野球をします」

He plays baseball.

ステップ 2. 動詞の部分を **be 動詞 + going + to + 一般動詞の原形** にする。

He is going to play baseball.

**【ポイント！】**

**1. will be と同じように使われる be going to be**

will be ~ と同じように、be going to be ~ という形もよく使われます。

<例> 私は、明日は私のオフィスにいるつもりです。

I will be in my office tomorrow. / I am going to be in my office tomorrow.

**2. be going to と will の違い**

厳密に言うと、be going to と will には以下のような違いがあります。

《be going to が使われるケース》

**(1) 話す前からすでにある程度、することが決まっている時（予定）**

He is going to buy a new TV today. （彼は今日新しいテレビを買う予定です）

<もうすでに買うことがある程度決まっている状態>

**(2) 話し手が「そうなるだろう」と判断している時**

It is going to rain soon. （もうすぐ雨が降りそうです）

<雨がすぐに降ることを予想している>

《will が使われるケース》

**(1) 自分の意思を表す時**

I will buy a new TV today. （私は今日新しいテレビを買うつもりです）

<「新しいテレビを買うぞ」という自分の意思が含まれている>

**(2) 単純な未来。自然のなりゆきで起こる未来**

It will rain this Sunday. （この日曜日は雨が降るでしょう）

<ただ雨が降るだろうという意味。特別な感情はない>

しかし、ここまで詳しく覚えるのは大変なのでまずは「**be going to=予定**」「**will=意思**」とだけ覚えるのが良いでしょう。be going to と will の説明をする時によく取り上げられるのが、プロポーズの時に使われる Will you marry me?（結婚してくれますか）という表現です。これには、**自分の意思が含まれているため will が使われます**。もし Are you going to marry me? では「あなたは、私と結婚する予定なの？」という、結婚する気があまり感じられないプロポーズになってしまいます。「こういった違いがある」ということは覚えておきましょう。

## Lesson 18-2 : 様々なフレーズ②

### 1. Maybe ~ = おそらく ~ / たぶん ~

<例> Maybe he is right. <たぶん彼は正しいです>

#### [補足説明]

Maybe は、一語。通常文の最初に置かれ “Maybe + 文” の形になる。また、質問の答えで「おそらく」と言いたい場合、Maybe とだけ言われることもある。

<例> A: Can you teach them? B: Maybe.

<A: あなたは彼らを教えられるですか。 B: おそらく>

### 2. It will be sunny. = 晴れるでしょう。

<例> It will be sunny in Tokyo. <東京は晴れるでしょう>

#### [補足説明]

「天気」「気温」などを言う場合、一般的には主語に it が用いられる。そのため「東京は晴れるでしょう」という場合 基本的に Tokyo will be sunny. とは言わないので注意。また他の天気を表す単語には cloudy (曇った) / windy (風の吹く / 風の強い) / rainy (雨降りの) / snowy (雪降りの) などがある。ただし、雨 / 雪を表す場合は rain (雨が降る) / snow (雪が降る) といった動詞を使い、It will rain. / It will snow. (雨が降るでしょう / 雪が降るでしょう) とすることも多い。

### 3. the number of ○○ = ○○の数 / ○○の番号

<例> What is the number of your room? <あなたの部屋の番号は何ですか>

#### [補足説明]

「○○の番号」と何の番号なのか限定されているので、the number と the がつく。また「生徒の数」と言いたい場合は、特定されている生徒たちのことであっても the number of students と the students にならないことが多い (the students としても間違いではないが、この the は不要とされている)。

<例> 私は生徒の数を知りたいです。

I want to know the number of students. = ○

I want to know the number of the students. = △

#### 4. many of ○○ = ○○の多く

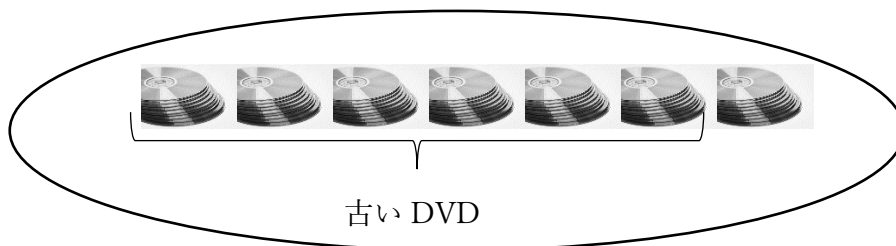
<例> Many of my DVDs are old. <私のDVDの多くは古いです>

##### [補足説明]

「私のDVDの多く」「彼らの多く」など何か限定されているグループの中の多くと言いたい場合に使われるフレーズ。

<例> 私のDVDの多くは古いです。

<私の持っているDVD>



「彼らの多く」「私たちの多く」など「彼ら / 私たち」と言いたい場合、「彼ら / 私たち」は代名詞の目的格 (them / us) が使われる。

<例> Many of them are tall. <彼らの多くは背が高いです>

#### 5. be busy with ~ = ~で忙しい

<例> He is busy with his new work. <彼は、彼の新しい仕事で忙しいです>

### Lesson 18-3 : be going to 否定文

be going to の否定文は、基本的に be 動詞の否定文と同じ扱い になります。そのため、肯定文を作り be 動詞の後に not を足してあげれば完成となります。

#### 【未来形 be going to の否定文 : 基本の形】

主語 + be 動詞 + not + going + to + 一般動詞の原形 + ~.

(「主語」は「一般動詞」しないつもりです) (「主語」は「一般動詞」しない予定です)

<例> He is not (isn't) going to teach English. (彼は英語を教えないつもりです)

They are not (aren't) going to come to Japan. (彼らは、日本には来ない予定です)

I am not going to work tomorrow. (私は、明日は働かないつもりです)

### 【作り方】

ステップ 1 : be going to の**肯定文**を作る。

ステップ 2 : be 動詞の後ろに **not** を足す。

(am 以外の be 動詞の場合、be 動詞と not の短縮形を使うことも可)

<例 1 : 彼は英語を教えないつもりです>

ステップ 1 : be going to の肯定文を作る。→ 「彼は英語を教えるつもりです」

He is going to teach English.

ステップ 2 : be 動詞の後ろに not を足す。

He is not (isn't) going to teach English.

<例 2 : 彼らは日本には来ない予定です>

ステップ 1 : be going to の肯定文を作る。→ 「彼らは日本に来る予定です」

They are going to come to Japan.

ステップ 2 : be 動詞の後ろに not を足す。

They are not (aren't) going to come to Japan.

## Lesson 18-4 : 様々なフレーズ②④

### 1. pick up ○○ = ○○を拾う / ○○を拾い上げる / (車などで) ○○を迎えに行く

<例> We need to pick up the litter in the park. <私たちは公園のゴミを拾う必要があります>

#### 【補足説明】

○○が代名詞の場合、pick ○○ up の形になる。また、代名詞でなくても pick ○○ up の形が使われることもある。

<例> You need to pick him up at 10:00. (あなたは彼を 10 時に迎えに行く必要があります)

You need to pick the litter up. (あなたはゴミを拾う必要があります)

## 2. give a speech (複数形 : give speeches) = スピーチをする / スピーチを行う

<例> Can you give a speech at the event? <イベントでスピーチをしてくれますか>

### [補足説明]

give a speech / give speeches の代わりに make a speech / make speeches という表現もある。しかし、make の場合「スピーチをする」という意味だけでなく「スピーチを作成する」という意味でも使うことができるため文脈上「スピーチをする」なのか「スピーチを作成する」なのか判断がしにくい場合は、give が使われることが多い。また「～についてのスピーチ」という場合、speech about ~ だけでなく speech on ~ もよく使われる。

<例> He gave a speech on his work. <彼は、彼の仕事についてのスピーチをしました>

## 3. share (〇〇) with ~ = (〇〇を) ~と分け合う / (〇〇を) ~と共有する

<例> I want to share this cake with you. <私はこのケーキをあなたと分け合いたいです>

## 4. around the world = 世界中で / 世界中を / 世界中の

<例> I want to travel around the world. <私は世界中を旅したいです>

### [補足説明]

around は「～の周りに (を) / ～の周りに / ～の周りを回って」という意味。基本的に世界は1つしかないため、world は、通常 the world と冠詞の the がつく形で使われる。

## 5. get 〇〇 = 〇〇の状態になる (〇〇=形容詞)

<例> He is getting big. <彼は大きくなってきています>

### [補足説明]

get を進行形にすると「〇〇の状態になってきている / 〇〇の状態になりつつある」という意味になる。

## Lesson 18-5 : be going to 疑問文

be going to の疑問文も、基本的に be 動詞の疑問文と同じ扱いになります。そのため、肯定文を作り、be 動詞を文頭に持ってきてあげれば完成となります。

### 【be going to の Yes/No 疑問文：基本の形】

be 動詞 + 主語 + going + to + 一般動詞の原形 + ~?

(「主語」は「一般動詞」するつもりですか / 予定ですか)

- <例> Is she going to call you? (彼女はあなたに電話するつもりですか)  
Are you going to talk with Takuro? (あなたはタクロウと話す予定ですか)  
Is he going to go to the library today? (彼は今日図書館に行くつもりですか)

### 【作り方】

ステップ1 : be going to の肯定文を作る。

ステップ2 : 文の先頭に be 動詞 を持ってきて、最後を ? にする。

<例1 : 彼女はあなたに電話するつもりですか>

ステップ1 : be going to の肯定文を作る。→ 彼女はあなたに電話するつもりです。

She is going to call you.

ステップ2 : 文の先頭に be 動詞 を持ってきて、最後を ? にする。

Is she going to call you?

<例2 : あなたはタクロウと話す予定ですか>

ステップ1 : be going to の肯定文を作る。→ あなたはタクロウと話す予定です。

You are going to talk with Takuro.

ステップ2 : 文の先頭に be 動詞 を持ってきて、最後を ? にする。

Are you going to talk with Takuro?

**【疑問文の答え方】**

答え方は、基本的に Yes / No の 2 種類。

Yes, 代名詞 be 動詞.

No, 代名詞 \*be 動詞 not.

\* am 以外の場合、be 動詞 + not の短縮形を使うのが一般的。

be 動詞で聞いているので be 動詞 で答える。

do / does で答えないように注意。

<例> Are you going to study English?

Yes, I do. =×

<例 1>

**Is she going to call you?** (彼女はあなたに電話するつもりですか)

はい → **Yes, she is.**

いいえ → **No, she isn't. (No, she is not.)**

<例 2>

**Are you going to talk with Takuro?** (あなたはタクロウと話す予定ですか)

はい → **Yes, I am.**

いいえ → **No, I am not.**

そして、be going to に who / what / why などの疑問詞を足す場合は、be 動詞の文の時同様、基本的に疑問詞を疑問文の前に足してあげれば完成となります。

**【疑問詞 + be going to の疑問文：基本の形】**

疑問詞 + be 動詞 + \*主語 + going + to + 一般動詞の原形 + ~?

\*主語をたずねる疑問文の場合は「主語」の部分はなくなる。

<例> What are you going to study today? — I am going to study English and French.

(今日あなたは何を勉強する予定ですか。 — 私は英語とフランス語を勉強する予定です)

When is he going to come here? — He is going to come here at 5:00.

(いつ彼はここに来るつもりなのですか。 — 彼は 5:00 にここに来るつもりです)

Who is going to make our lunch? — Ms. Suzuki is. 【主語をたずねる疑問文】

(誰が私たちの昼食を作る予定ですか。 — 鈴木さんです)



### 【作り方】

ステップ1：疑問詞の部分（何、いつ、など）に同じ種類の**適当な単語**を入れて**疑問文**を作る。

（主語をたずねる疑問文の場合は、**肯定文**を作る）

ステップ2：入れた“適当な単語”を「**疑問詞**」に戻す。

（主語をたずねる疑問文の場合は、更に文の最後を“？”にして終了）

ステップ3：疑問詞を**文頭**に持ってくる。

<例1：今日あなたは何を勉強する予定ですか>

ステップ1：疑問詞の部分（何）に同じ種類の**適当な単語**を入れて疑問文を作る。

→「今日あなたは**英語**を勉強する予定ですか」

Are you going to study **English** today?

ステップ2：入れた“適当な単語”を「**疑問詞**」に戻す。

Are you going to study **what** today?

ステップ3：疑問詞を**文頭**に持ってくる。

**What** are you going to study today?

<例2：誰が私たちの昼食を作る予定ですか> 【主語をたずねる疑問文】

ステップ1：疑問詞の部分（誰）に同じ種類の**適当な単語**を入れて肯定文を作る。

→「**彼女**が私たちの昼食を作る予定です」

**She** is going to make our lunch.

ステップ2：入れた“適当な単語”を「**疑問詞**」に戻し、最後を？にする。

**Who** is going to make our lunch?

### 【ポイント！】

#### スピーキングなどでよく登場する be gonna の形

be gonna は、be going to のくだけた言い方として使われます。そのため、親戚や友だちと会話をする際は、be gonna の方が多く使われる印象があります。しかし、プレゼンテーションや交渉などのビジネスの場では避けた方が無難な表現だと思います。

<友だちと話す時>

I am going to play soccer tomorrow. = ○      I am gonna play soccer tomorrow. = ○

<プレゼンテーションの時>

I am going to talk about this next. = ○      I am gonna talk about this next. = △